

資料提供	
令和6年 5月 8日	
担当課 (担当者)	感染症対策センター (衛生環境研究所) (福田、最首)
電話	0858-35-5411

鳥取県感染症流行情報（速報）

第18週 [ 令和6年4月29日(月・祝)～5月5日(日・祝) ]

<主な定点把握対象感染症>

疾 病 名	東 部	中 部	西 部
インフルエンザ	×	×	△
感染性胃腸炎	○	○	×
水痘（水ぼうそう）	△	×	×
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	◎	◎	×
手足口病	△	×	△
ヘルパンギーナ（夏かぜ）	△	△	×
咽頭結膜熱	◎	◎	○
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	★	★	★
流行性角結膜炎	×	×	×
マイコプラズマ肺炎	×	×	×
伝染性紅斑	×	×	×
RSウイルス感染症	○	×	△

★ 警報発令中  
◎ 流行している      ○ やや流行している  
△ 散発                      × 患者発生極少又はなし

<新型コロナウイルス感染症>

地 区	東 部	中 部	西 部	合 計	全国（第17週）
患者数（人）	24	21	42	87	
定点当たり患者数	2.00	3.50	3.82	3.00	3.22
流行情報	—	—	—		

注意レベル： 定点当たり 10 人/週（今後の感染拡大に注意が必要と考えられる段階）  
警戒レベル： 定点当たり 20 人/週（感染者数の加速度的な増大のおそれがある段階）

【コメント】

- 1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報が発令中です。中部地区で患者報告数が増加し、流行しています。引き続き注意が必要です。
- 2 咽頭結膜熱は、東部及び中部地区で患者報告数が増加し、流行しています。特に中部地区では警報レベルを超えており、注意が必要です。
- 3 流行性耳下腺炎は、東部及び中部地区で患者報告がありました。
- 4 新型コロナウイルス感染症は、東部及び中部地区で患者報告数が増加しています。
- 5 定点における患者報告数（「流行している」と判定された疾病または、20件を目途に報告数が多い疾病）；

- ・ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（101件）
- ・ 新型コロナウイルス感染症（87件）
- ・ 感染性胃腸炎（80件）
- ・ 咽頭結膜熱（25件）
- ・ 流行性耳下腺炎（2件）

【お知らせ】

○ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報が発令中です。

病名	特徴	予防のポイント	
		個別事項	共通事項
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	発熱と咽頭痛、発疹等の症状がみられる細菌による感染症です。まれに重症化することもあり、小児だけでなく成人でも発症します。	・ 咳エチケットを心がけましょう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特に流行時には手洗いをしっかりしましょう。</li> <li>・ 症状があった場合は、早めに医療機関を受診しましょう。</li> </ul>
咽頭結膜熱	アデノウイルスの感染により、発熱、のどの痛み、結膜炎といった症状をきたす、小児に多い感染症です。	・ 感染者との密接な接触は避けましょう（タオルなどは個人用としましょう）。	
流行性耳下腺炎	強い感染力をもったムンプスウイルスによる感染症で、唾液腺（耳下腺など）の腫れ、圧痛、嚥下痛、発熱がみられます。	・ 集団生活に入る前にワクチンで予防しておくことが有効です。	
新型コロナウイルス感染症	発熱、咳、全身倦怠感等の感冒様症状を主症状とする新型コロナウイルスの感染によって起こる感染症です。頭痛、下痢、結膜炎、嗅覚障害、味覚障害等を呈する場合があります。ご高齢の方、基礎疾患を持つ方は重症化するリスクがあります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手指消毒、換気の徹底、場面に応じたマスク着用などに心がけ、特に高齢者と接する場合などは、体調を整えるようにしましょう。</li> <li>・ 重症化リスクの高い方は、近接した会話や混雑した場所を避けることが有効です。</li> <li>・ 感染の不安があり受診される場合は、医療機関へ事前に電話連絡の上、指示に従って受診しましょう。</li> </ul>	

※咳エチケット：咳、くしゃみが出る場合には、ティッシュ、ハンカチなどで鼻や口を押さえ飛沫を飛ばさないようにすること

# 鳥取県感染症発生動向調査情報（週報）

第18週 [ 令和6年4月29日(月)～5月5日(日) ]

(地区別)

令和6年5月8日 作成

(件)

	東 部		中 部		西 部		合 計			県内1定点当		全国1 定点当
	18週	前週比	18週	前週比	18週	前週比	18週	17週	前週比	18週	17週	17週
インフルエンザ/COVID-19定点数	12		6		11		29					
1 インフルエンザ	2	29%	3	38%	5	36%	10	29	34%	0.34	1.00	1.07
2 新型コロナウイルス感染症	24	104%	21	111%	42	88%	87	90	97%	3.00	3.10	3.22
小児科定点数	8		4		7		19					
3 咽頭結膜熱	5	167%	17	142%	3	33%	25	24	104%	1.32	1.26	0.70
4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	40	41%	41	137%	20	63%	101	160	63%	5.32	8.42	4.66
5 感染性胃腸炎	44	70%	26	118%	10	43%	80	108	74%	4.21	5.68	4.60
6 水痘	1	—	0	—	0	—	1	0	—	0.05	0.00	0.18
7 手足口病	2	—	0	0%	2	—	4	1	400%	0.21	0.05	0.58
8 伝染性紅斑	0	—	0	—	0	—	0	0	—	0.00	0.00	0.03
9 突発性発疹	0	0%	1	100%	1	—	2	2	100%	0.11	0.11	0.31
10 ヘルパンギーナ	1	—	1	—	0	0%	2	1	200%	0.11	0.05	0.09
11 流行性耳下腺炎	1	—	1	—	0	—	2	0	—	0.11	0.00	0.05
12 RSウイルス感染症	4	133%	1	100%	4	133%	9	7	129%	0.47	0.37	1.73
眼科定点数	2		1		2		5					
13 急性出血性結膜炎	0	—	0	—	0	—	0	0	—	0.00	0.00	0.02
14 流行性角結膜炎	0	0%	0	—	0	0%	0	2	0%	0.00	0.40	0.63
基幹定点数	2		1		2		5					
15 細菌性髄膜炎	0	—	0	—	0	—	0	0	—	0.00	0.00	0.01
16 無菌性髄膜炎	0	0%	0	—	0	—	0	1	0%	0.00	0.20	0.02
17 マイコプラズマ肺炎	0	—	0	—	0	—	0	0	—	0.00	0.00	0.16
18 クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	—	0	—	1	—	1	0	—	0.20	0.00	0.00
19 感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)	0	—	0	—	0	—	0	0	—	0.00	0.00	0.02
合 計	124	70%	112	149%	88	106%	324	425	76%			

※中部の19の件数は、5の再掲(基幹定点が小児科定点と共通のため)。

## 第18週の感染症発生動向調査情報について

- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報が発令中です。中部地区で患者報告数が増加し、流行しています。引き続き注意が必要です。
- 咽頭結膜熱は、東部及び中部地区で患者報告数が増加し、流行しています。特に中部地区では警報レベルを超えており、注意が必要です。
- 流行性耳下腺炎は、東部及び中部地区で患者報告がありました。
- 新型コロナウイルス感染症は、東部及び中部地区で患者報告数が増加しています。
- 定点における患者報告数（「流行している」と判定された疾病または、20件を目途に報告数が多い疾病）：
  - ・ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（101件）
  - ・ 新型コロナウイルス感染症（87件）
  - ・ 感染性胃腸炎（80件）
  - ・ 咽頭結膜熱（25件）
  - ・ 流行性耳下腺炎（2件）